

## 令和3年簡易生命表について

令和3年簡易生命表は、日本における日本人について、令和3年1月から12月の1年間の死亡状況が今後変化しないと仮定したときに、各年齢の者が1年以内に死亡する確率や、平均してあと何年生きられるかという期待値などを、死亡率や平均余命などの指標によって表したものである。

これらの指標は、男女別に各年齢の人口と死亡数を基にして計算されており、現実の年齢構成には左右されず、死亡状況のみを表していることから、死亡状況を厳密に分析する上で不可欠なものとなっている。また、0歳の平均余命である「平均寿命」は、全ての年齢の死亡状況を集約したものとなっており、保健福祉水準を総合的に示す指標として広く活用されている。

なお、厚生労働省では、日本の生命表として、「簡易生命表」と「完全生命表」の2種類を作成・公表している。「簡易生命表」は、人口推計による人口と人口動態統計月報年計（概数）による死亡数、出生数を基に毎年作成している。一方、「完全生命表」は、国勢調査による人口（確定数）と人口動態統計（確定数）による死亡数、出生数を基に5年ごとに作成している。

また、これらの生命表は、特に重要な統計として、統計法に基づき基幹統計に指定されている。

### <利用上の注意>

#### (1) 表章記号の規約

減少数（率）の場合	△
計数不明又は計数を表章することが不適当な場合	…

(2) 掲載の数値は四捨五入して記載していることから、これらの数値の四則演算結果が対応する数値と合わない場合がある。

(3) 新型コロナウイルス感染症等には、新型コロナウイルスワクチンの副反応を原死因としたものを含む。